

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った情報を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	造影超音波法による推定門脈圧測定の有用性の検討
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 第 3 内科 教授 日浅 陽一
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2025 年 12 月 31 日
対象となる方	2024 年 2 月から 2024 年 8 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち肝腫瘍評価目的に造影超音波検査を受けた 20 歳以上の患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、BMI、肝疾患の成因、内服薬、静脈瘤の形状、血液検査データ、画像検査データ 等 (利用する情報) 通常の診療で使用した後に残った超音波画像データ
研究の概要 (目的・方法)	門脈圧亢進症は慢性肝疾患でみられる合併症の中心的な基礎病態であり、適切な評価と診断は重要です。診断のゴールドスタンダードは肝静脈圧較差ですが、侵襲的であり繰り返し行うのは現実的ではありません。近年、造影超音波検査による非侵襲的な推定門脈圧測定方法が開発されました。これを肝静脈圧較差と比較することで有用性を検討いたします。さらに肝線維化マーカーなどとの関連も確認できれば、肝疾患の進行度や重症度を評価することが可能となり、臨床診療の一助となります。
個人情報の保護 について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報(対応表)は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。

	また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院第 3 内科 中村由子 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089－960－5308